

第4回泌尿器抗加齢医学研究会

日本抗加齢医学会認定単位3単位（受験用・更新用）

2012.9.2[SUN] 10:00-14:30
東京コンファレンスセンター・品川
(108-0075 東京都港区港南 1-9-36 アレア品川)

参加費

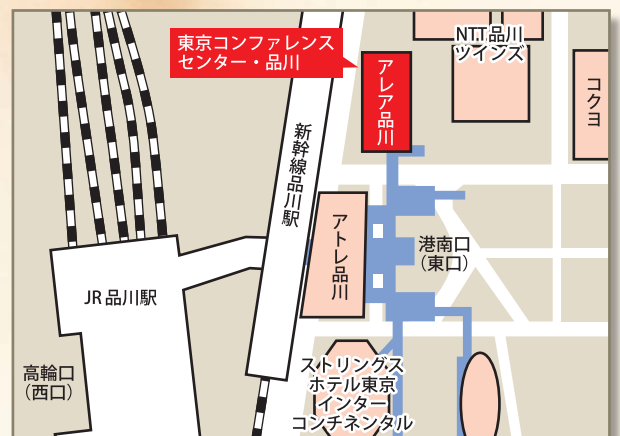
泌尿器抗加齢医学研究会 会員 5,000 円
泌尿器抗加齢医学研究会 非会員 10,000 円

主催

日本抗加齢医学会分科会泌尿器抗加齢医学研究会

泌尿器抗加齢医学研究会事務局

107-0062 東京都港区南青山 4-1-12-203
Phone: 03-5775-2075 Fax: 03-5775-2076
E-mail: urol@anti-aging.gr.jp
<http://www.anti-aging.gr.jp/urological/>



泌尿器抗加齢も、どんどん新しい知見が出てきています。決断のホルモン、テストステロンが脳にどう作用するのか、腎臓は酸化ストレスによりどう影響を受けるのか、大変興味がある分野です。さらにロボット手術と前立腺癌診療の今後の変遷や、今話題の AGE など盛りだくさんの内容でプログラムを作成しました。ぜひ皆さんお集まりください。

泌尿器抗加齢医学研究会 代表世話人 堀江 重郎

— プログラム (各講演：講演25分、質疑応答5分)

10：00～10：30 座長 永井 敦 川崎医科大学泌尿器科学教室教授

『脳とテストステロン』

川戸 佳 東京大学大学院/総合文化研究科/広域科学専攻教授

我々は、記憶中枢の脳海馬が独自に男性・女性ホルモンを合成していることを発見した。血流から来る男性・女性ホルモンよりも濃度が高い。加齢によって記憶能力が低下するとき、神経シナプスの密度が少なくなる。ここに男性・女性ホルモンを海馬スライスに加えると、神経シナプスの数を増やし、記憶能力を上げる効果がある。脳内の男性・女性ホルモン合成力を維持できれば、脳の老化を食い止めることが出来るかもしれない。

10：30～11：00 座長 松本 成史 旭川医科大学腎泌尿器外科講座講師

『女性泌尿器手術の現在』

奥井 伸雄 医療法人ウロギネットよこすか女性泌尿器科・泌尿器科クリニック院長
帝京大学医学部泌尿器科女性泌尿器科チーム

女性泌尿器科は、比較的新しい分野で、泌尿器科と婦人科の境界領域を中心に、女性の骨盤臓器脱・尿失禁・便失禁・膀胱腫瘍・頻尿・膣炎などをあつかう。骨盤臓器脱とは、膀胱が膣側から下垂する膀胱腫瘍（経膣膀胱脱）、子宮が脱出する子宮脱、直腸が膣から下垂する直腸腫瘍などがある。診断と治療ともに、統合的な考え方が必要である。膀胱腫瘍は、その初期に尿道過動による腹圧性尿失禁を呈している例があり、その時期に恥骨尿道韌帯を補強するタイプの尿失禁手術をすると、その後の膀胱腫瘍は症状のつよく、修復困難なものになりうる。直腸腫瘍は、肛門から直腸粘膜が脱出する直腸脱と同時に存在することもおおく、それは会陰体を中心に直腸腔間の組織の脆弱さから出現する。そのため、直腸脱や痔の手術をすることで、直腸腫瘍は症状の悪化を招くことがある。膀胱腫瘍では、従来ろう孔部分の膀胱部分切除や腸間膜充填が行われてきたが、再発例があり、それはろう孔の起因となる手術による膀胱に生じる過剰なテンションや疎血が原因と考える。こうした女性泌尿器科の分野は、骨盤内の力学的な考察が必要になる。現在は、骨盤内力学にはインテグラル仮説があり全世界的に支持をされている。我々は骨盤力学の3D画像による分析をして実施している。我々の取り組みを報告する。

11：00～11：30 座長 井手 久満 帝京大学医学部泌尿器科准教授

『アンチエイジング時代の前立腺全摘除術-ロボット手術は期待に応えられるか-』

大山 力 弘前大学大学院医学研究科泌尿器科学講座教授

早期前立腺癌の治療法にはPSA監視療法、放射線療法、手術療法等多数のオプションが存在する。早期前立腺癌に対する前立腺全摘除術の生命予後は良好であり、cancer controlとともに術後のQOLを良好に保持することが求められる。長期生命予後が保証されるのであれば、前立腺全摘除術にもアンチエイジング時代にマッチしたアウトカムが期待される。ロボット手術は果たしてその期待に応えられるのであろうか？

11：50～12：50 座長 堀江 重郎 帝京大学医学部泌尿器科主任教授

『イソフラボンによるがん予防（前立腺がんも！）』

渡邊 昌 社団法人生命科学振興会理事長

共催：大塚製薬株式会社

13：00～13：30 座長 増田 均 癌研究会有明病院泌尿器科副部長

『老けたくなければファーストフードを食べるな』

山岸 昌一 久留米大学医学部糖尿病性血管合併症病態・治療学講座教授

糖尿病では、心血管合併症や骨粗鬆症、アルツハイマー病、癌など加齢に伴ってリスクが上がってくる疾病が、10-15年前倒して出現してくる。つまり、老化のプロセス自体が、糖尿病で加速していることが予想される。最近、この分子基盤に糖化反応の亢進、終末糖化産物（AGE）化反応が関わっていることが明らかとなってきた。AGEは、細胞表面受容体であるRAGEによって認識され、臓器障害を引き起こすだけでなく、コラーゲンなどの生体内蛋白を悪玉架橋させ、各種疾患の病態に関わる。さらに、食事に由来するAGEの過剰摂取が老化のプロセスを押し進めることも実験動物の系で明らかにされてきている。本講演では、EDやLOH症候群を含めた様々な疾患に及ぼすAGE-RAGE系の役割について解説するとともに、新しいアンチエイジング療法の可能性についても言及していく。

13：30～14：00

『男性医学2012』

堀江 重郎 帝京大学医学部泌尿器科主任教授

今年の男性医学のトピックは、まずテストステロンの認知機能に対する作用の発見。ボケ防止にいいよテストステロンという時代が来ました。さらにED治療については、バイアグラだけでなく、デバイスで血管を強化して治すことが可能になりそうです。今年も新しいトピックで楽しく男性医学を勉強しましょう。

14：00～14：30 座長 大家 基嗣 慶應義塾大学医学部泌尿器科学教室教授

『酸化ストレスと腎臓』

伊藤 貞嘉 東北大学大学院医学系研究科・医学部腎・高血圧・内分泌学分野教授

腎臓は酸素消費の多い臓器であり、相対的に虚血になりやすい臓器である。腎臓における酸素消費のほとんどは再吸収に用いられている。一方、腎臓におけるエネルギー源は、皮質では脂肪酸であり、髄質では糖であるが、髄質での糖代謝は乳酸までの解糖系で終わる。また、腎臓は空腹時のみならず、摂食後にも糖新生をしている。これらの代謝過程は、腎血行動態や尿管機能と密接に関連して、体液や循環の恒常性が保たれている。糖尿病、高血圧や慢性腎臓病ではこのような精巧な調節のバランスが崩壊してくるが、その過程で酸化ストレスが極めて大きな影響を及ぼすことが明らかになってきた。本講演では、特に、糖尿病と慢性腎臓病の病態生理における酸化ストレスの果たす役割を述べる。

— お申し込み

下記必要事項を明記いただき、FAXまたはE-mailにてお申し込みください。FAXの場合は、下欄にご記入の上、切り取らずそのまま送信してください。お申し込み後、下記口座に参加費をお振り込みください。お振り込みが確認できた時点でお申込み完了となり、参加証をお送りいたします。

【お申込内容】該当の□にチェックを入れてください。

- ①第4回泌尿器抗加齢医学研究会 会員参加費 5,000円
- ②第4回泌尿器抗加齢医学研究会 非会員参加費 10,000円
- ③泌尿器抗加齢医学研究会入会希望（2012年度年会費）3,000円

※泌尿器抗加齢医学研究会への新規入会を希望の方は、上記③にもチェックを入れてください。今回ご入会された方は、研究会会員価格で参加が可能です。

Fax : 03-5775-2076
E-mail : urol@anti-aging.gr.jp

お振り込み先 三井住友銀行青山支店 普通 6952347 □座名義「泌尿器抗加齢医学研究会事務局」

(フリガナ) お名前		日本抗加齢医学会ID (会員の方のみ)	
所属・役職			
ご連絡先 該当する項目に チェックしてください	住所 〒			
<input type="checkbox"/> 勤務先	TEL ()	FAX ()		
<input type="checkbox"/> ご自宅	E-mail @			

上記個人情報につきましては、泌尿器抗加齢医学研究会事務局にて管理し、第三者へ譲渡することは一切ございません。